

1粒の大豆でも まけば日本を守る ファーマーズ！

教える人 福士武造さん



せっかく自分で野菜を育てるなら、
農薬や化学肥料は使いたくないものです。
「自然の仕組み」に適ったやり方なら、
力を引き出された野菜は、元気にむくむ
く育ってくれます。

大豆の場合は、根に共生する「根粒菌」(土壤微生物)が多くつくように育てることが最大のポイント。

大豆は太陽エネルギーなどから作り出した糖分を根粒菌に与え、根粒菌は空気中から作った天然の窒素肥料と言えるものを大豆に与えます。これにより、大豆は肥料分の少ないやせた土地でも盛んに育ちます。

気をつけることは土の水分量。「地下かんがい法」の機能を持たせた鉢植えは、下から水を入れることで水分調整がしやすく、根粒菌の力を最大限に引き出します。

野菜が健やかに育つ姿を見るのは本当に楽しいもの。

まずは気軽に、
レッツたねまき！

大豆の生長を助ける根粒菌が よくはたらく 「地下かんがい鉢植え」大豆の育て方

●じゅんびするもの

- ・大豆のタネ
- ・鉢(深さ30cm以上)
- ・トレイ(水が深さ5cm以上入るもの)
- ・化学肥料の入っていない土
- ・赤玉土(中玉)



神奈川県出身の小野田恭介さん(31歳)は、4年前に青森に移住。福士さんから手取り足取り農業を教わり、今年には借り受けた田んぼ(82a)に自ら『地下かんがい法』を施し大豆を育てている。

「危機的状況の米農家にとって、『地下かんがい法』の米と大豆の1年輪作の技術は必ず役立つと肌で感じています。福士さんの信念を引き継ぎ、この技術を広めていきたい」と語る小野田さんの笑顔は、何とも明るい。

料理家の辰巳芳子さんが提唱する『大豆100粒運動』(12ページ参照)にも、福士さんは協力している。地元小学校の児童に農地の一部を提供し、『地下かんが

い法』を導入した農林高校の生徒が、小学生に大豆の育て方を教えている。

ある高校生は、『地下かんがい法』の技術に夢と希望を抱き、「過疎化し、耕作放棄地が増えている故郷の農業と景観を復活させたい」と決意した。早速親に相談し、自宅の田んぼに『地下かんがい法』を導入。指導した福士さんは、「農業者冥利に尽きる」と喜びを隠さない。

現在、食生活の多様化などから米の消費量が減り、田んぼでは大豆など米以外の作物を作ることが求められている。「『地下かんがい法』ならそれが容易にできま

す」と語る福士さんは、農家だけでなく、消費者も気軽に体験できるように、鉢植えで簡単かつ楽しく、農家が驚くような大豆を収穫できる仕組みを考えた(左参照)。

「これはぜひ、皆さんにもチャレンジしてもらいたいなあ」

福士さんの挑戦は、まだまだ続く。

「10年先、20年先の子どもたちの未来のために、農家も加工業の方も流通業の方も食べる方も、年齢も職業も地位も関係なく、何ができるかを皆さんと一緒に考えていきたいと願っています」

福士さんのように私たちも、田畑、そして日本の風土を守ってくれている農家の皆さんの応援団でありたい。



熱心に「大豆の鉢植え」の生育試験を行っている福士さん。自宅脇には50個ほど鉢が並び、中には背丈ほどに生長したのも

※『地下かんがい方』について、詳しくは「WEBエコピュア」をご覧ください。
<http://www.ecopure.info>

実は大豆が完熟する前に収穫したものが枝豆!

5月～7月
～種まき～

根についたつぶつぶの中で根粒菌が活発に活動!



8月～9月
～枝豆の収穫～



10月～11月
～大豆の収穫～



2月頃
～味噌づくり～



半年後から食べ頃!

1

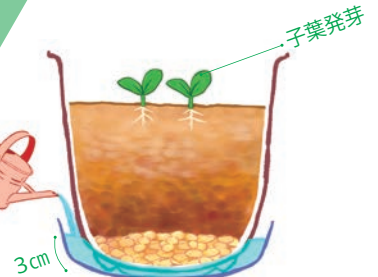


上からの水やりは最初の1回だけ!



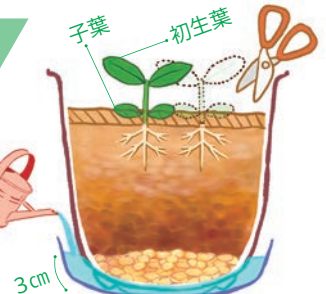
鉢の中央に間隔をあけて2か所、深さ2～3cmに1粒ずつまく。ジョウロで水をやり、土をしめらせる。その後の水やりは下のトレイに

2



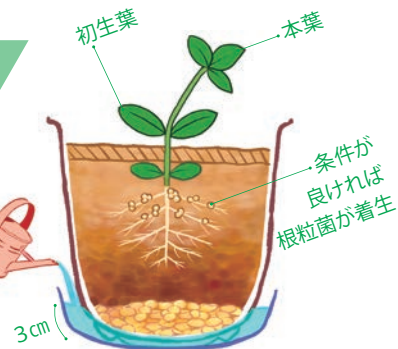
下(トレイ)に水を入れることが「地下かんがい鉢植え」のポイント!

3



初生葉がでたら、生育の遅い方をカットし、子葉まで土入れする

4



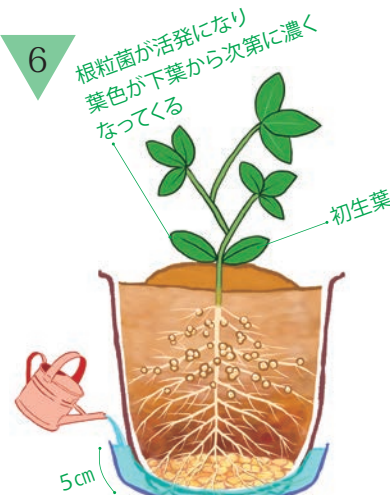
本葉がでたら、初生葉の根元まで土入れする ※ここまでの育成で大豆の良し悪しが決まる!

5



初生葉の下の茎が伸びたら土入れする。水を深さ5cmほど入れる。3～4日でなくなった後は、1日水をやらない日をつくると根が水を求めて生長する。これを繰り返す(大豆知識) 二葉が出た後は、土の表面を乾いた状態にすることで、根粒菌が活性化

6



さらに土入れする POINT 大雨の場合はトレイを外そう!

7



葉が落ち、枯れたようになってから約1週間待つ。さやをふってカラカラと音になったら収穫のサイン